

保護者の皆様へ

MR(麻しん・風しん二種混合)予防接種 接種漏れ者事業予診票は
2枚複写です**MR(麻しん風しん二種混合)接種漏れ者事業について**

MRの定期予防接種の期間は裏面5のとおりですが、2歳以上18歳以下の接種日現在大田区に住民登録がある方で、定期予防接種のMR予防接種が未接種であることが母子健康手帳等の記録により確認できる方を対象に、大田区独自の制度としてMRワクチンの接種事業を行います。

大田区独自の制度ですので次の点にご注意ください。

- ① 定期予防接種とは違って、大田区内の契約医療機関以外は制度の対象となりません。
必ず大田区内の契約医療機関で接種してください。
- ② 令和7年3月31日までに接種してください。また、19歳以上の方はこの制度でお渡しした予診票では接種できませんのでご注意ください。

MRワクチン予防接種を受けるに当たってのご説明
～予防接種に欠かせない情報です。接種の前に必ずお読みください～

1 麻しん・風しんの症状

麻しん(はしか)は、麻しんウイルスの空気感染によって発症します。非常に感染力が強い病気です。約10日～12日の潜伏期間を経て発病すると38℃以上の熱が3～4日間続き、せきと鼻汁、めやにが続き、一時熱が下がりますが、また39～40℃の高熱となり、同時に体の中心部から発疹が現れてきます。高熱は4～5日で解熱し、次第に発疹も消失しますが、しばらく発疹の後には茶褐色の色素の沈着が残ります。

麻しんにかかると気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症を併発することが30%程度にみられます。

また、非常にまれですが、麻しんにかかってから数年後に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症することがあります。

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって発症します。2～3週間の潜伏期間を経て発症し、発熱、発疹、リンパ節腫脹などの症状が発症しますが、一般的に軽症のことが多く2～3日で回復することから「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症としてまれに関節炎、血小板減少性紫斑病、脳炎などを発症する場合があります。

また、風しんは大人になってからかかると子どもの時より重症化する傾向がみられます。妊婦が妊娠初期に風しんにかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる危険性があるため、子どものうちに免疫をつけておく必要があります。

裏面あり

2 使用ワクチン

弱毒性麻疹ウイルスをニワトリ胚培養細胞で増殖させ、また、弱毒性風疹ウイルスをウズラ胚培養細胞で増殖させ、得られたウイルスを精製して混合し、凍結乾燥したワクチン（生ワクチン）です。

※ 予防接種を受けたお子さんのうち95%以上が免疫を獲得することができるとされています。

3 MRワクチンの副反応

主な副反応として臨床試験での症例は、発熱（27.3%）、発疹（12.2%）、鼻汁（9.3%）、咳嗽（7.8%）、注射部位発赤（7.3%）注射部位腫脹（2.9%）などです。重大な副反応としてショック・アナフィラキシー様症状（0.1%未満）血小板減少性紫斑病（0.1%未満）急性散在性脳脊髄炎（ADEM）（頻度不明）、脳炎・脳症（0.1%未満）けいれん（0.1%未満）などが添付文書に記載されています。

4 健康被害救済制度

このMR（麻疹風疹二種混合）接種漏れ者事業によるMR（麻疹風疹二種混合）予防接種は、予防接種法に基づかない任意接種です。ワクチン接種により健康被害が発生した場合、予防接種法に基づいた救済は受けられませんが、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）が実施する医薬品副作用被害救済制度や大田区が加入する特別区自治体総合賠償責任保険制度（予防接種実施主体特約）による救済制度の対象となる場合があります。

5 定期予防接種の対象年齢と受け方（参考）

1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳
	1期				2期	
【定期予防接種の対象者】1期 1歳～2歳に至るまで（2歳の誕生日の前日まで）						
2期 5歳～7歳未満で小学校入学前の1年間 （いわゆる年長児の4月1日～翌年3月31日まで）						

- ※ 接種前に麻疹又は風疹にかかったお子さんであっても、MRを接種して差し支えありません。
- ※ 輸血またはガンマグロブリン製剤の投与を受けたお子さんの場合、生ワクチンの効果を減衰させる可能性があるため、投与から3か月間はあけて（大量投与の場合は6か月以上あけて）接種する必要があります。接種時期については、かかりつけの医師によく相談してください。